

東京国公だより

東京国家公務員・独立行政法人労働組合共闘会議 2018/4/9 17-25号

【電話】03-3501-6973

【FAX】03-3500-4391

【Eメール】

uematsu@tk-kokko.org

URL: <http://tk-kokko.org/>



主催者を代表してあいさつする添田誠二東京国公副議長



お昼休み国公仲間 80

人が結集しました。

《添田東京国公副議長
の挨拶は裏面通り》

この日は朝の宣伝後に、
午前は人事院交渉を実施
し、お昼休みは人事院前
での行動、午後からは国
公労連会議室にて学習交
流会と、行動は終日とな
りました。



国公船舶総行動 4月16日開催

危険! 家族と離れ、国民の安全・安心

を守る船舶職員の処遇を改善せよ!

4・16 国公船舶総行動 主催者挨拶（添田誠二東京国公副議長）

行動参加の皆さん、早朝宣伝行動や人事院交渉への参加も含め、大変お疲れ様です。私、東京国公副議長の添田と申します。本来は、代表世話人である東京国公議長の水谷よりご挨拶すべきところですが、本日業務都合により出席できないため、私が代理として、主催者を代表して一言ご挨拶をさせていただきます。

さて、海事職の国公労働者は、海洋気象観測、漁業資源調査や取り締まり、航路浚渫（しゅんせつ）、海面を浮遊する流木・ゴミや海洋流出油の回収、海洋研究・調査、航海訓練など、地球環境の維持保全をはじめ、国民生活にとって極めて重要な行政分野を支えていることは皆さんご承知の通りです。

とりわけ、東日本大震災、熊本地震、自然災害への対応など、昼夜を問わない海事労働者の活躍により、あらためて国営船舶の重要性が明らかとなっています。

重要な行政分野を支えるために、危険な海上での勤務により日々緊張を強いられる職務を遂行しています。また、離家庭・船内拘束・交替制勤務による心身の疲労など、特殊で厳しい労働環境・生活環境のもと、業務に奮闘されています。

このような状況にもかかわらず、海事職も含めた賃金の官民格差は、これまでの我々の要求にもかかわらず、厳然として存在し続けています。

先に述べましたが、人事院は、特殊で厳しい環境であるということ十二分に認識し、大幅な賃上げ・抜本的な処遇改善に、直ちに舵を切るべきです。

また、国家公務員の定年延長をめぐるのは、昨年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2017」を踏まえ、今年2月16日の「公務員の定年の引き上げに関する関係閣僚会議」に検討結果が報告・了承されました。

基本認識として、全ての職員についての働き方改革を通じた生産性向上の一層の推進と、厳しい財政事情から、職員構成の高齢化や雇用と年金の接続に伴う構造的な人件費の増加抑制、組織活力の向上や人材の確保・育成、公務能率の向上にとりくみ、コストパフォーマンスの高い政府の組織体制確立により人件費の生み出す価値を一層高めるなどとされています。

報道では、早ければ来年の通常国会に関連法を提出し、2021年度から段階的に実施するなどとされています。

人事院は、職員の生涯設計にも関わる重要な労働条件であるにもかかわらず、当事者である我々との合意なしに制度設計の方向性を決定するなど、労働基本権制約の「代償機関」であるべき役割を放棄していると言わざるを得ません。

我々は、賃金をはじめとした労働条件の抜本的改善・行政の充実に向けた体制の拡充・平和と憲法をまもるたたかいなどに引き続き結集することが求められます。

みなさん、ともに頑張りましょう！



国会前に怒りの5万人

森友・加計疑惑の真相究明、内閣総辞職を求める行動が14日、全国20カ所以上で行われ、安倍内閣に対する国民の怒りが列島を包み込みました。国会正門前の抗議行動にはのべ5万人（主催者発表）が参加しました。